



2017年4月28日

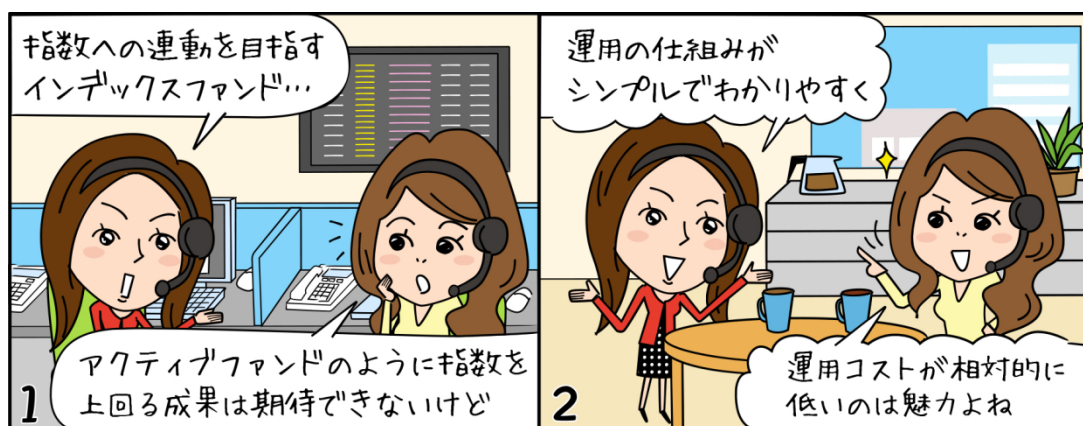
コールセンターからの小さなよみもの



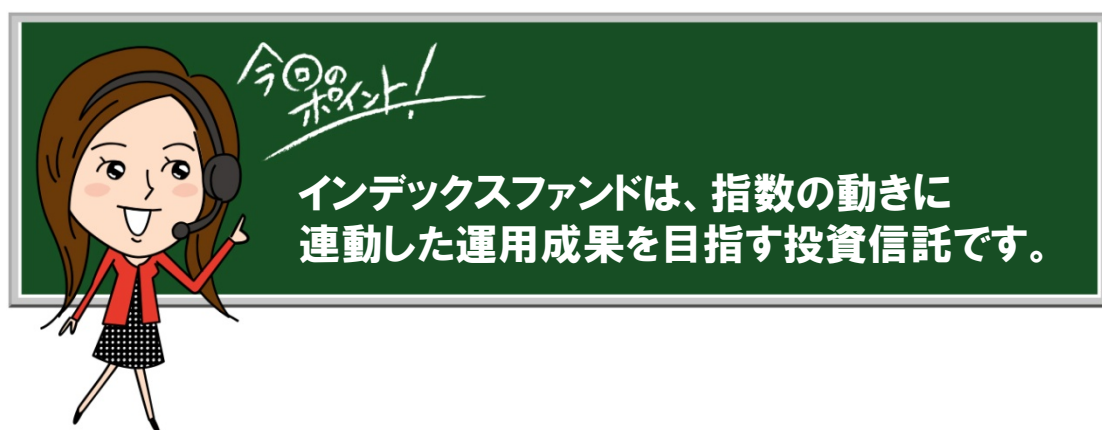
Vol.99

インデックス
ファンド

あらためてインデックスファンドの 魅力を考えてみよう！



投資信託を購入する際、運用の仕組みがわかりやすい商品として、インデックスファンドの説明を受けたことがあるお客様も多いのではないのでしょうか。
そこで今回は、インデックスファンドについて押さえていただきたいと思います。





コールセンターからの小さなよみもの

投資信託の運用手法のひとつとして、インデックス運用があります。インデックス運用は、対象となる指数(インデックス)に連動した運用を目指します。指数には例えば、日経平均株価やTOPIX(東証株価指数)などがあり、これらと同じような動きとなるように運用する投資信託がインデックスファンドです。

一方、指数を上回る成果を目指す運用手法をアクティブ運用といい、運用担当者が投資する銘柄を選択し、運用する投資信託がアクティブファンドです。

インデックスファンドとアクティブファンドのどちらが良いとは一概にはいえず、それぞれが特徴を持っています。例えば、インデックスファンドは、指数が10%上昇する時は、概ね10%上昇します。指数が下落する時も同様です。指数が一般に公表されているので、比較的運用成果を把握しやすいといえます。

アクティブファンドは、指数が10%上昇する時には10%以上の上昇を目指し、指数が下落する時は、下落率をより小さくすることを目指します。もちろん、銘柄選択の良し悪しによって、指数を上回ることも、下回ることもあります。また、アクティブファンドは、銘柄選定のための企業調査などにコストがかかるため、運用管理費用(信託報酬)がインデックスファンドよりも相対的に高くなります。

	インデックスファンド	アクティブファンド
投資対象	指数の構成銘柄に投資	運用担当者が独自に銘柄選択
運用の狙い	指数に連動	指数を上回る
コスト	相対的に低い	相対的に高い

インデックスファンドは、わかりやすい運用の仕組みと低コストという点から、長期投資にも馴染みやすい商品といえます。また、株式、債券、REITなどそれぞれ海外の指数も含めて複数の指数があり、その指数を対象とする様々なインデックスファンドがありますので、ご自身のニーズに合わせた投資を検討してみてもいいかもしれません。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。